

エコアクション21

環境経営レポート

(対象期間:2020年4月1日~2021年3月31日)



東京特殊車体株式会社

2021年10月1日



®環境省

エコアクション21

認証番号 0009144

目 次

1.	組織の概要	1
2.	環境経営方針	2
3.	環境活動の実施体制	4
4.	過去3年間の環境負荷の状況	5
5.	環境経営目標(中期3ヶ年計画).....	7
6.	今年度の環境経営目標と実績、次年度の取り組み...	8
7.	環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等 の有无	10
8.	代表者による評価および見直し.....	10

1. 組織の概要

1. 事業所名
東京特殊車体株式会社
2. 代表者氏名
代表取締役 西岡 偉久
3. 所在地
〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1
4. 環境管理責任者
総務部長 貝塚 聰
連絡先：TEL：042-644-3517 E-Mail：satoshi.kaizuka@toutoku.co.jp
5. 事業の規模
資本金 : 40,000 千円
年商額 : 2,401 百万円(2020 年度実績)
主要品生産量 : その他製造業 (特種車両の製造 : 75 両 (2020 年度実績))
従業員数 : 72 名 (2021 .3.31 時点)
延床面積 : 6,084 m²
敷地面積 : 9,312 m²
6. 事業活動の内容
各種特種車両の設計・製造販売・修理
7. その他
設立年月日 : 1967 年 2 月 10 日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名	: 東京特殊車体株式会社
関連事業所	: なし
登録対象外	: なし
活 動	: 各種特種車両の設計・製造販売・修理

2. 環境経営方針

環境経営方針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
 - (3) 節水の実践
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
2. 環境経営を継続して改善するため、全社員参加の改善活動である「ONE1019 (ワントウトク)」の中で具体的な環境経営目標を策定し、取り組みを行います。また、環境経営目標は定期的に、あるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境経営レポートとして公表します。

制定 2017年 4月 1日

改訂 2021年 10月 1日

東京特殊車体株式会社
代表取締役 西岡 偉久

《参考》系列グループの理念および環境基本方針

「京王グループ理念」

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

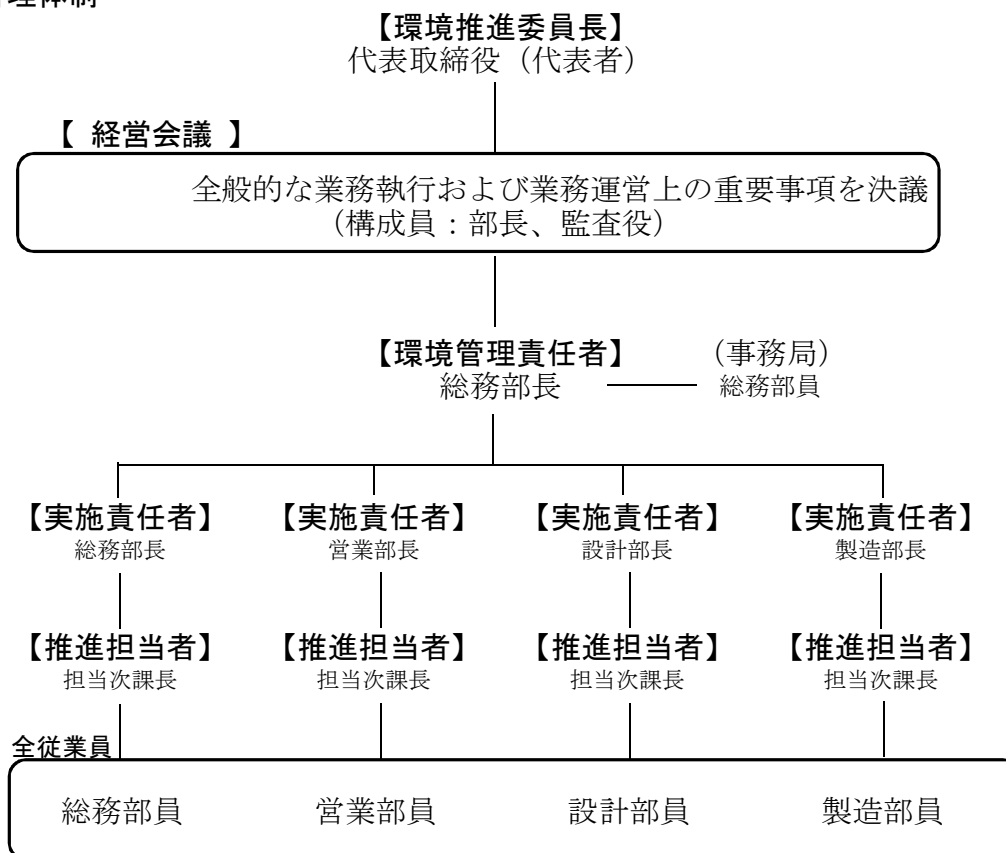
「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全環境を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。

3. 東京特殊車体(株)環境管理体制及び役割

1. 管理体制



2. 役割分担

名称	役割・責任
環境推進委員長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動全般の推進 経営における課題とチャンスの明確化 環境管理責任者の任命 環境活動の評価、見直し(年1回) 環境経営方針の作成 経営資源の確保
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 活動の構築、運用 各種会議体の開催 代表者への報告 事務局運営 取組み状況の確認と改善 外部からの苦情の窓口
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境責任者、運営のサポート 環境経営レポートの作成 各種データの取得、記録 啓蒙活動の推進
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部門の統括 推進担当者のフォロー 活動計画実施状況の監督
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画の実務推進 取組みに対する意見の集約、具申 環境活動の実施状況の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚 環境活動への参加、環境経営計画の実行

4. 過去3年間の環境負荷の状況

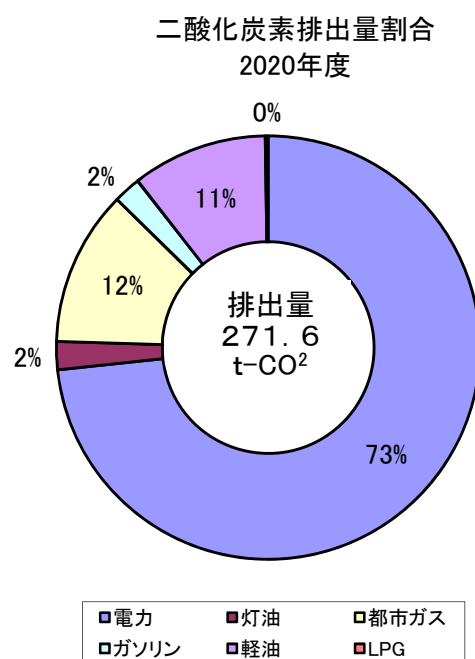
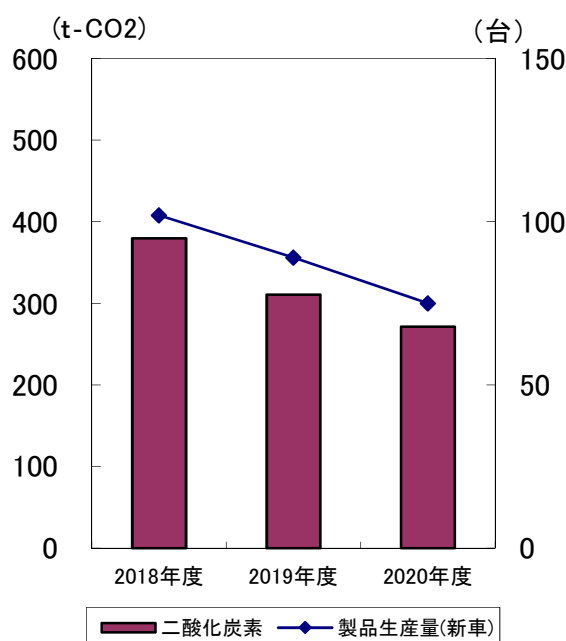
環境への負荷(指標及び種類)		単位	2018年度	2019年度	2020年度
			2018.4-2019.3	2019.4-2020.3	2020.4-2021.3
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	t-CO ₂	379.5	310.8	271.6
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	94	76	78
		焼却処理	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	52	44	39
③-1 総排水量	下水道	m ³	1,149	1,209	1,031
③-2 水使用量	上水	m ³	518	559	516
	地下水	m ³	766	789	625
④ 化学物質使用量	PRTR	kg	2,938	1,838	3,819
	都管理物質	kg	4,091	2,420	5,139
	総排出量	kg	4,784	2,815	5,970
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	5,333,461	4,995,837	4,513,588
	化石燃料	MJ	2,847,914	1,992,986	1,641,971
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	300.0	269.5	367.4
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質	-	対象なし	対象なし	対象なし
	水の利用量	-	対象なし	対象なし	対象なし
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)	台	102	89	75

※CO₂排出量の計算に使用した電気のCO₂排出係数は

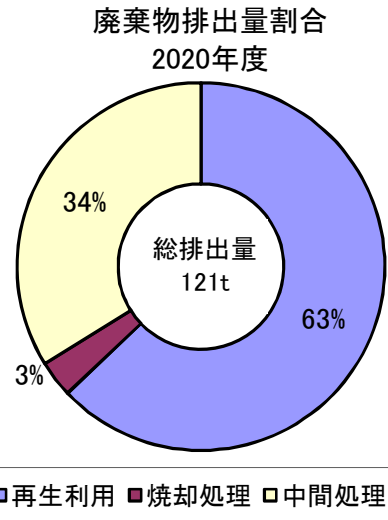
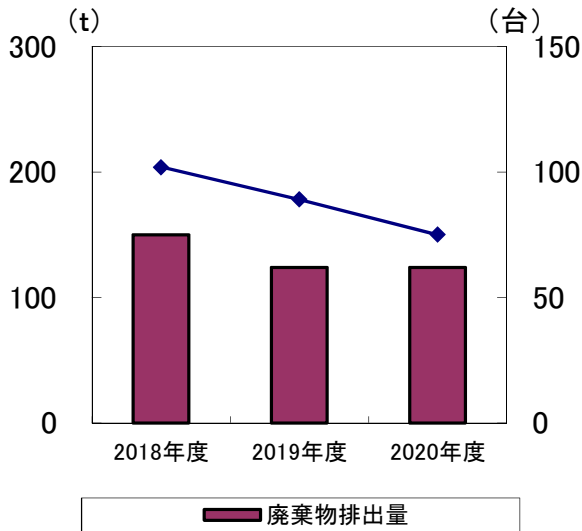
2014年度までは 0.377kg-CO₂/kWh

2015年度からは 0.382kg-CO₂/kWhで算出してます

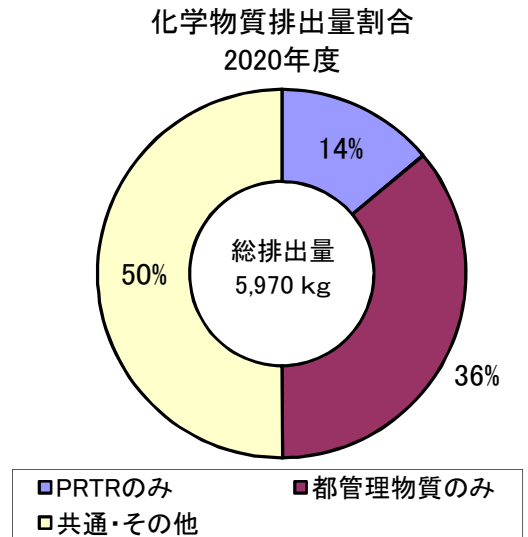
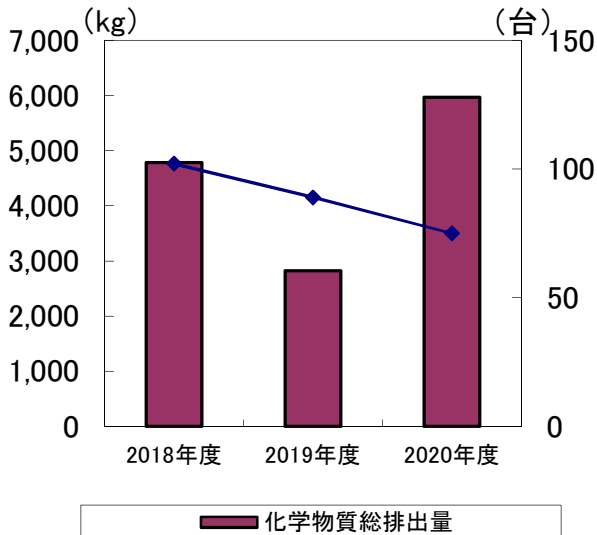
二酸化炭素排出量と生産量



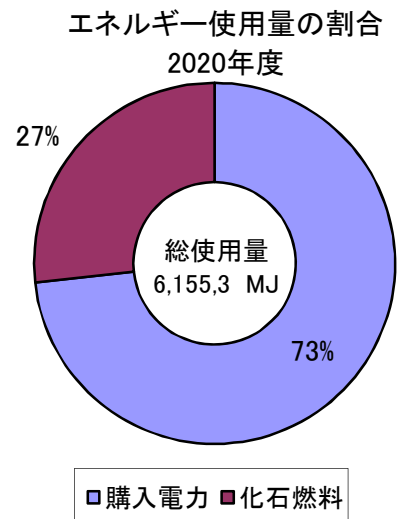
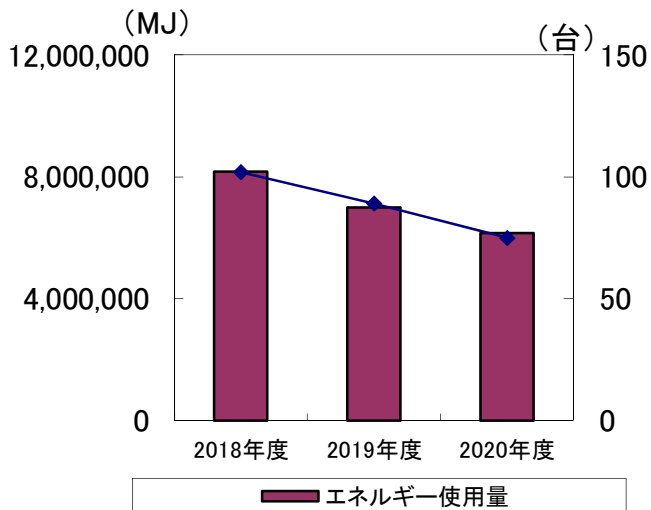
廃棄物排出量



化学物質使用量



エネルギー使用量



5. 環境目標(中期3ヵ年計画) 2018年度～2020年度、2021年度～2023年度

環境中期目標の主要項目 2018年度～2020年度

2018年3月 制定

重点施策	目的	環境目標				
		基準年 (2016年度)	2018年度	2019年度	2020年度	
1 環境 負荷 の 削減	1.1 省エネルギー・省 資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	406,0	397.9	393.9	390.0
		使用電気量削減 (kWh)	628,200	615,700	609,541	603,446
		都市ガス使用量削減 (Nm ³)	30,700	30,089	29,788	29,490
		灯油使用量削減 (ℓ)	8,300	8,134	8,052	7,972
		水使用量削減 (m ³)	1,208	1,184	1,172	1,160
		化学物質使用量の 削減 (kg)	4,570	4,479	4,434	4,390
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する産 業廃棄物排出量の 削減 (kg)	51,300	50,279	49,776	49,278
2 環境 取組 への 取組 の 推進 ・ 向上	2.1 グリーン 購入	環境を考慮した事 業経営	—	事務用品 購入	事務用品 購入	事務用品 購入
	2.2 製品の環 境性能の 向上に関 する目標	業界団体の環境活 動への参加	—	負荷物質フリ ー宣言 の再確認	負荷物質フリ ー宣言の再確 認	負荷物質フリ ー宣言の再確 認
	2.3 環境コミ ュニケー ションの 実施	地域住民との交流 外部情報の活用	—	工場公開継続 廃棄物業者訪 問 展示会の見学	工場公開継続 廃棄物業者訪 問 展示会の見学	廃棄物業者訪 問 展示会の見学
	2.4 その他	省エネ 廃棄物減量	—	本工場の環境 管理の新ルー ル決め	ルールの定着	使用電気量の 維持

※電力のCO₂排出係数は0.382 kg-CO₂/kWhです

※2018～2020年度の削減率は初年度を年2%削減とし、それ以降前年から1%削減です

重点施策		目的	環境目標			
			基準年 (2019年度)	2021年度	2022年度	2023年度
1 環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (kg-CO ₂)	310,807	307,699 (基準年度比▲1%)	304,623 (前年度比▲1%)	301,577 (前年度比▲1%)
		使用電気量削減 (kWh)	501,087	496,077 (基準年度比▲1%)	491,117 (前年度比▲1%)	486,206 (前年度比▲1%)
		都市ガス使用量削減 (Nm ³)	20,134	19,933 (基準年度比▲1%)	19,734 (前年度比▲1%)	19,537 (前年度比▲1%)
		灯油使用量削減 (ℓ)	4,710	4,663 (基準年度比▲1%)	4,617 (前年度比▲1%)	4,571 (前年度比▲1%)
		水使用量削減 (m ³)	1,348	1,335 (基準年度比▲1%)	1,322 (前年度比▲1%)	1,309 (前年度比▲1%)
		化学物質使用量の削減 (kg)	2,815	2,787 (基準年度比▲1%)	2,760 (前年度比▲1%)	2,733 (前年度比▲1%)
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する産業廃棄物排出量の削減 (kg)	43,090	42,660 (基準年度比▲1%)	42,234 (前年度比▲1%)	41,812 (前年度比▲1%)
2 環境取組への取組の推進・向上	2.1 環境教育訓練	環境経営システムの有効性向上	—	環境教育計画立案 One1019 活動との統合推進	環境教育の定着 One1019 活動との統合推進	環境教育の定着 One1019 活動との統合推進
	2.2 製品の環境性能の向上に関する目標	業界団体の環境活動への参加	—	一社) 日本自動車車体工業会 重金属4物質フリー宣言の継続	一社) 日本自動車車体工業会 重金属4物質フリー宣言の継続	一社) 日本自動車車体工業会 重金属4物質フリー宣言の継続
	2.3 環境コミュニケーション	地域住民との交流 外部情報の活用	—	廃棄物業者訪問 Web 等での情報公開の拡充を検討	廃棄物業者訪問 Web 等での情報公開の拡充を検討	廃棄物業者訪問 Web 等での情報公開
	2.4 その他	工場の省エネ	—	本工場の環境管理の手順作成	本工場の環境管理の手順作成継続	本工場の環境管理の手順作成継続

※電力の CO₂ 排出係数は 0.382 kg-CO₂/kWh です

※基準年度は、新型コロナウイルスの影響が大きかった 2020 年度を除く直近の年度としています

6. 今年度の環境経営目標(環境活動計画)と実績、次年度の取り組み

6.1 環境負荷の削減

分類	項目	環境目標 環境活動計画	2020年4月～2021年3月 (製造台数 75両)			今期の振返りと次年度の取り組み
			実績	対目標	評価	
環境負荷の削減 1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	390.0	271.6	70%	○	目標とする製造車両数が環境目標作成時から 20%超低下しているため、大きく目標を達成していると考えている。 次年度以降、新しい製造車両数を基本とした目標により、傾向を注視する。
	使用電力量削減 (KWh)	603,446	452,717	75%	○	
	都市ガス使用量削減 (m ³)	29,490	19,423	66%	○	冬季の製造車輛台数が大きく減ったため、車両塗装時の乾燥に使用する都市ガス使用機会が減少したと考えている。 冬季の車両製造数の影響を考慮していく。
	灯油使用量削減 (ℓ)	7,972	3,590	45%	○	主な使用目的が工場内での暖房用途である。環境目標作成時と比較してエアコンが整備された休憩室が整備されたこと、また冬季の車両製造数が減少し、残業が減った影響と考えている。 今後の傾向を注視する。
	水使用量削減 (m ³)	1,160	1,140	98%	○	工場事務所が分離したこと、従業員用シャワー設置による使用量の傾向の変化と考えている。今後の傾向を注視する。
	化学物質使用量の削減 (kg)	4,390	5,970	136%	×	塗料用に使用されているシンナーの使用量の環境対応は進んでいるが、切替前の従来型シンナーの購入量が非常に多かった。 従来型のシンナーの切替を推進していく。
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃棄物量の削減 (kg)	49,278	41,383	84%	○

※電気のCO₂排出係数は 0.382Kg-CO₂/kWh で計算しています

※軽油は弊社製品(特殊車両)の燃料タンクへの給油が使用量の大部分を占めるため、上表に記載をしておりません

6.2 環境への取り組み

分類	目的	環境目標 環境活動計画	2020年4月～2021年3月 (製造台数 75両)		今期の振り返りと次年度の取組み	
			取組結果	評価		
環境への取組	2.1 グリーン購入	事務用品の優先購入	・購入品の選別	統一カタログによる購入の継続	○	今後も継続する。
	2.2 製品の環境性能の向上に関する目標	業界団体の環境活動への参加	・(一社)日本自動車車体工業会 重金属4物質フリー宣言活動 (鉛、水銀、六価クロム、カドミウムに対する目標)	重金属4物質フリー宣言を継続	○	継続して製品の環境性能に配慮を行う。
	2.3 環境コミュニケーション	地域住民との交流 外部情報の活用	・定期的な工場周辺清掃活動を実施 ・廃棄物業者訪問	毎月1および16日に、工場正門周辺清掃活動を実施した 2021年3月に、エコ計画(株)最終処分場および中間処理工場の見学を行った	○	周辺環境を良好に保つ活動を継続する。
	2.4 その他	省エネ 廃棄物減量	本工場の環境管理の新ルール決め	照明の個別SW化が進んだため、部分照明の推進を行った 廃棄物の処理では、钣金工程において従来より細かく廃棄物の内容確認が行われ、その分類および排出場所の指定が行われた	○	部分照明については実施は、明文化された手順には至らなかった。今後ともルール定着に向け、手順化等の活動を推進していく。

7. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、及び車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。また訴訟に関しては過去5年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

本年度は新型コロナウイルス感染拡大を主な原因とする社会情勢の変動が続いており、弊社でも大きな影響を受けておりますが、エコアクション21の環境活動を全社的な品質改善活動である「ONE1019（ワントウトク）」活動と併せて行うなど、実施体制に工夫を凝らした結果、電力使用量や廃棄物の削減などの成果を得られたと考えています。

次年度も社会情勢が流動的な状況は続くと思われ、但し、「ONE1019」活動を通じ、着実に環境経営の改善を推進してまいります。